

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成21年10月13日(火) 4校時
児 童 一関市立千厩小学校2年ろ組 29名
授業者 藤原広枝

児童に基本的な学習過程を理解させ、自力で解決していく力をつけさせる指導のあり方
ー比べて読む活動を取り入れた指導過程の工夫ー

- 1 単元名 ようすを考えて読もう (光村図書2年下)
教材名 「お手紙」(物語) アーノルド＝ローベル作
三木 卓訳

2 単元について

(1) 児童について

児童は、2年上「ふきのとう」では、場面の様子について、役割読みをしたり動作化したりしながら想像を広げて読む学習を行い、「スイミー」では、登場人物の気持ちや場面の様子などについて、想像を広げながら読み、感想を持つ学習を行っている。これらの学習を通して、全文を読んで、場所や登場人物などおおまかな内容をとらえ感想を持つことができるようになってきた。また、動作化を取り入れながら音読し、登場人物の会話を楽しむことができるようになってきた。このような学習をしてきたことを通して、関連する本を選んで読書活動につなげる児童もみられるようになってきた。しかし、個人差もあり、自分のイメージや思いこみで読んでしまい、登場人物の行動を正しく読むことができていない児童も多く見られる。

前年度のCRTの結果を見ると、「読むこと」の領域の全国比は109であった。小領域「順序を考えながら読む」においては、全体では全国平均を上回るものの、理解の個人差が大きいことが分かった。また、更に小問で見ると、場面の様子の読み取りは正答率が高いが、登場人物の読み取りの正答率が全体的に低いものもあり、このことから「主述の関係を理解し、登場人物の言動を正しく読む」ということができていないことが分かった。

また、読書の活動は、学校全体で取り組んでいる「読書カード」、「読書ビンゴ」、「読破達成目標の設定」によって、楽しんで読書をする児童が増えている。特に「読書ビンゴ」で様々な領域の図書が設定されているため、読書領域に偏りのある児童も様々な図書にふれる機会が多くなってきた。

(2) 教材について

2年生のこれまでに学習してきた物語、「ふきのとう」、「スイミー」、本単元で学習する「お手紙」、これから学習する「スーホの白い馬」を並べてみると、多様な場面設定、人物設定の四編である。文体も多様であり、どれも音読を中心に活動をさせながら場面の様子を豊かに想像させることのできる教材である。

本教材「お手紙」の特徴は、登場人物であるかえるくんとがまくんの会話が多く使われ、主としてこの二人の会話のやりとりで物語が進められていくところにある。この特徴を生かして、役割読みで音読をし、登場人物のやり取りを楽しませることができる。また、役割読みをするには、誰が誰に話したことなのかを確認する必要があるため、「だれが・どうした」という主述の関係も捉えやすくなるを考える。もう一つの特徴は、登場人物の動きを追っていくと、物語の時間的な順序や場面の様子の変化が分かりやすいことがあげられる。更に、物語の各場面にある挿絵も、場面の様子を想像する手がかりになるよう、効果的に使われている。これらのことから、「お手紙」は、登場人物の言動を正しく読み取る学習に適した教材であると考えられる。

また、アーノルド＝ローベルは、かえるくんとがまくんを主人公にした物語のシリーズを書いている。そこで、「お手紙」をきっかけとして、読書の楽しみを味わわせたり、読書の幅を広げたりすることもできる。

(3) 指導にあたって

① 本単元で育てたい力(読むこと)と具体的な手だて

育てたい力(読むこと)	指導場面	具体的な手だて
ア 時間や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む力	第1次	<ul style="list-style-type: none"> ・アーノルド＝ローベルの作品の並行読書と読み聞かせをし、登場人物に親ませ、おおまかに登場人物の性格をつかませる。 ・場面ごとに叙述と挿絵を照らし合わせて、時間と事柄の順序を整理させる。
イ 登場人物の言動を追い、心情や様子の変化を読む力	第2次 3・4場面 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の変化前と変化後の場面を比較する場を設け、変化に気づかせる。どのような事柄が起こったのかを叙述に即して考えさせる。 ・主述の関係に気をつけたり、登場人物の気持ちや場面の様子を想像したりしながら役割読みをさせる。
ウ 学んだことを生かして楽しむために、好きな本を選んで読む力	第4次	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した「お手紙」をきっかけに、「アーノルド＝ローベル」のシリーズから自分が好きな本を選ばせ、紹介する場を設ける。

② 指導上で特に留意する点

単元の学習の始まりに、自分が選んだ本を友だちに紹介するという活動があることを示す。そのために、「お手紙」のがまくんとかえるくんについて、みんなで詳しく読んでいき、読み方を学んでいくのだという意識を持てるようにする。

また、登場人物の言動を追って、場面ごとの読み取りはしていくが、物語全体をとらえられるよう、場面どうしの比較をしたり、作品全体をとらえられるような板書や掲示をしたりする。

最終的には、主体的な読書活動へつなげていくために、単元に入る前の段階で、家庭学習でアーノルド＝ローベルの作品を読んだり、読み聞かせをしたりして、児童が「お手紙」以外の作品にも興味を持てるようにする。

3 単元の目標及び評価規準

- ◎「だれが・どうした」に気をつけて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読むことができる。
- ◎アーノルド＝ローベルの作品に興味を持ち、薦めたい本を選ぶ。

国語への関心・意欲・態度	読む力	書く力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・本単元での学習をもとに、アーノルド＝ローベルの作品に関心を持ち、進んで本に親しもうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子や登場人物の心情について想像しながら読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物にあてて書く手紙であることを考えながら書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係に注意して読んだり書いたりしている。

4 単元の指導計画(18時間扱い)

段落	学習目標	時配	学習活動	評価規準
第一次	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を知り、単元の学習の見通しを持つ。 ・文章を読み、大まかな内容をとらえる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで読んできたアーノルド＝ローベルの作品を選んで友だちに紹介することを知り、学習の見通しをもつ。 ・「お手紙」を読んでおもしろいと思ったところを発表し合い、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 関・本文中のおもしろいと思う箇所を見つけて、感想を話したり書いたりしている。

第二次	<p>・場面の様子や会話をとらえ、登場人物の気持ちを読み取る。</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> ・時と場所に着目して、場面分けをする。 ・だれの会話文であるかを確認合う。 ・1の場面を読み、手紙をもらえないがまくんの気持ちを会話文から読み取り、がまくんの気持ちを想像しながら役割読みをする。 ・2の場面について、かえるくんの行動を順序を追って読み取り、かえるくんの行動を確認めながら役割読みをする。 ・3の場面と1の場面を比較してふたりの立場が逆転しているところを見つける。また、ふたりの言動を比べながら読み取る。ふたりの気持ちが表れるように役割読みをする。 ・4の場面と1の場面の手紙を待つふたりを比較して、気持ちの変わり目を見つける。手紙を待つふたりの気持ちを読み取り、役割読みをする。(本時) ・5の場面の手紙が届いたときの様子を読み取り、ふたりの気持ちを想像する。また、自分も登場人物の誰かに手紙を書くことを知り、誰に書くかを決める。 	<p>読・だれの会話文であるかを指摘し、がまくんのかえるくんの気持ちを想像して声に出して読んでいる。</p> <p>読・かえるくんの言動を順序よく読み取り、様子がわかるように音読している。</p> <p>読・ふたりの言動から気持ちを想像し、音読している。</p> <p>読・ふたりの言動や幸せな思いなどを正しく読み取り、気持ちを想像しながら音読している。</p>
第三次	<p>・自分が思ったことを登場人物にあてて手紙に書く。</p>	1	<p>・登場人物にあてて、思ったことを手紙に書く。</p>	<p>書・ひとりの登場人物にあてて、思ったことを手紙に書いている。</p>
第四次	<p>・紹介したい本を選び、発表会をする。</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> ・「アーノルド＝ローベル」のシリーズ本から自分が紹介したい本を選ぶ。 ・選んだ本の好きなどころ、紹介する相手に読んでもらいたいところをカードにまとめる。 ・選んだ本の発表会「本の花をさかせよう」をする。 ・紹介された本から自分が読みたい本を選ぶ。(簡単な感想をメッセージカードに書く。) 	<p>関・「アーノルド＝ローベル」のシリーズ本の中から紹介したい本に興味を持ち、選ぶとしている。</p> <p>読・友だちに薦めるために選んだ本を読んで、好きなどころをみつけて紹介している。</p>

5 本時の指導(7/18)

(1) 目標

- 二つの場面を比較することで登場人物の言動の変化を読み取り、しあわせなふたりの心情を想像する。

(2) 展開

段階	学習内容 ○主な発問	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	<p>1 前時までの学習内容の想起</p> <p>2 本時の学習場面の確認 ○1の場面と4の場面を比べて、同じところと違うところを探しましょう。</p> <p>3 本時の課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">ふたりがしあわせな気持ちになったのはなぜだろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・1の場面で手紙を待つふたりの挿絵と、4の場面で手紙を待つふたりの挿絵を比較して共通点と相違点をとらえる。 ・本文から、ふたりの気持ちが分かる文章を見つけ、1と4の場面の気持ちを比較することから相違点を明確にする。 ・課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵のふたりの表情と、その表情を表している文章に注目させるようにする。 ・場面の比較を行うことによりふたりの登場人物の変化を明確にし、その原因を叙述から探そうとする意欲を高める。
展開 30分	<p>4 学習場面の音読 ○ふたりの気持ちが変わったのは、どこからで、何が起こったのか考えながら読んでいきましょう。</p> <p>5 学習課題の解決 ○がまくんがかなしい気分でなくなったのは、どこからでしょう。</p> <p>○手紙がまだ来ていないのに、がまくんはなぜ、しあわせな気持ちになったのでしょうか。4の場面から理由を見つけましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4の場面を読む。(指名読み) ・「かなしい気分」から変化していると分かるところを見つけ、線を引く。 ・心情の変化が分かるように音読する。 ・気持ちが表れているところを見つけ、線を引く。 ・これまでとらえた変化のきっかけとなったことからや会話文、手紙の内容から、がまくんがしあわせな気持ちになった理由を見つけ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読みの視点を確認する。 ・「だれが どうした」という視点から変化をつかませる。 ・授業者が二通りの読み方を示し、どちらの読み方が適しているのか、なぜその読み方が適しているのかを考えさせる。 ・登場人物の会話文に心情が表れていることに着目させる。 ・心情の変化のきっかけとなった「手紙」の存在に着目させる。

